

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200040		
法人名	有限会社 モリモト		
事業所名	グループホーム 田尻の里	ユニット名	北ユニット
所在地	福岡市西区大字田尻1520番地		
自己評価作成日	平成26年11月17日	評価結果市町村受理日	平成27年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成26年11月25日	評価確定日	平成26年12月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「好きに暮らして、明るく安心」をモットーに、安心で安全・安楽な生活環境の提供を心がけています。そして、障害を有されていても、尊厳ある生活者としての「いきがい」支援を願い、スタッフは今を大事に思って、笑顔を決やさないようにしています。介護保険事業者として、地域密着事業者としての期待に添えるよう、順法精神に立った、関係者に喜ばれる運営に努めています。

また、サービスの提供は、チームケアの重要性の理解に立ち、入居者と同じように、スタッフ相互の信頼関係如何は特に、その内容や質を左右するものと考えますので、失敗事例を大切に共有し、個々の反省も然りですが、それ以上にチームとして事例理解し、分析し、事故等の防止にこころがける服務姿勢を大事にしていきたいと考えています。権利擁護は、高齢者のみにではなく、チーム総員にも、その重さを認識すべきと考えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市西区にある“田尻の里”では、職員の要望が叶い、敷地内の砂利道の舗装が行われた。車いす等を利用した外出がしやすくなり、ゴミ捨てに行かれたり、隣の薬局でおやつやの買い物もされている。26年度に初めて開催された福岡マラソンのコースがホームの前であり、ランナーの応援を皆さんで行う事ができた。ご利用者の願いを叶える取り組みも行われ、「ぜんざいを食べたい」という方々のために、“川端ぜんざい”を食べに行き、山笠を見物する事もできた。全ての取り組みは、両ユニットの両管理者と職員全員の結束で行われている事であり、様々な経験をしながらも地道に取り組みを続けてこられた成果である。施設長からも、両管理者等の日々の姿勢に対して、「このホームを本当に愛している」と言う言葉が聞かれており、今後も適正な職能評価を行い、職員全員が“やりがい”のある職場環境を作り続けていく予定である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在「④地域に生きる活動を支援します」の実践で、地域への働きかけを行っている。まだ、始めたばかりで職員にまで浸透していないが徐々に実践していく予定である。	ユニット会議で理念の勉強会が行われた。幹部体制や勤務シフトの変更が行われる中、職員同士の連携は深く、精一杯、ご利用者のケアを続けてこられた。地域連携のため民生委員や自治会への働きかけも行われ、民生委員の方等に運営推進会議に参加して頂く事もできた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだ始めたばかりでできていないが、徐々に地域の一員として交流できるようになりたいと考えている。	管理者が地域に出向き、地域と連携する取り組みを続けている。年3回、敬老会等に保育園児が来て下さり、夏祭りにはボランティアの方が演芸をして下さっている。生け花教室(毎月)も行われ、ボランティアの方が生け花を教えて下さっている。中学生の体験学習ではゲームも楽しまれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の代表の方が参加するようになってきており、その時に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までは報告のみの会議になっていたの、参加している方から意見が表出できるようになるようにしたい。	会議の参加者を増やす取り組みを続け、公民館館長や民生委員にも参加頂けるようになった。敬老会や夏祭り等の時に会議を行う事で、家族の方も参加しやすくなり、活動状況やご利用者の暮らしぶり等を報告している。地域の災害対策も話し合い、訓練にも参加して下さった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新手続きくらいであまり関係はないが、協力できることがあればしていきたい。	25年度に設立した「福岡市西区西部6校区地域密着部会」に参加している。情報交換や勉強会と共に、地域関係者、市との密着活動も行われ、認知症カフェの設立に向けた検討も続けている。25年度には西区と早良区のGH連絡会もでき、行政との情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を減らすよう取り組みを行い、研修に参加をして身体拘束を減らせるようにつとめている。	職員全員“身体拘束はしない”という思いがあり、“身体拘束0”に向けた検討を続けている。ご本人の不安や混乱を減らすように努めており、感情不安定な時はお話を聞き、家族と過ごす時間も作られている。身体拘束の再確認を行い、安全に配慮したケアが行われている。	今後も身体拘束の条件である3原則を確認すると共に、3原則に通じる根拠や実際の取り組みを記録に残していく予定である。解決策の議論を深め、医療連携も密に行い、“身体拘束0”を目指した取り組みを続ける予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加をして、会議の場で話し合いを行い虐待につながらないようにつとめている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加をして、会議の場で発表を行っている。	入居契約時に制度についての説明を家族に行っている。適宜、家族からの相談を受け、管理者が説明をしており、制度が必要な方のために、後見人候補であった社会福祉協議会等との話し合いも行われた。職員は制度に関する外部研修に参加し、他の職員に伝達している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会のときなどご要望を聞くようにしている。運営推進会議はなかなか話しやすい雰囲気が出ていないので話しやすい雰囲気づくりに努めたい。	家族から「ホームで合唱をしたい」という希望を頂く等、家族との関係は良好である。“田尻の里たより”で暮らしぶりを伝え、献立表も渡している。「リハビリをしてほしい」と言う要望もあり、病院でのリハビリを開始した方もおられる。家族へのアンケートも行い、フェイスブックも活用し、情報発信している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で話を聞くようにしている。	管理者と職員のチームワークが強くなり、職員個々の目標を設定し、職員間で共有している。業務改善案も話し合い、行事内容は職員主動で検討している。1年間の予定についても意見や提案が出され、認知症デイについても管理者の発案で市との協議が行われた。	今後も引き続き、職員の意見や提案に対しての取り組みを具現化すると共に、適正な個人評価（職能評価）を実施する事で、各自のモチベーションのアップに繋げていきたいと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能評価が整備されていないため、正当な評価が得られていない面がある。今後整備し、正当な評価ができることで各自の向上心があがるようにしていきたい。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別などで採用対象外になるようなことはしていない。	採用時には資格を問わず、やる気や優しさ等を大切にしている。採用後も研修希望を伺い、勤務調整をしたり、職員の特技（飾りつけ、裁縫など）を発揮して頂いている。管理者に意見を伝えやすい環境が作られ、職員の離職も減り、チームケアも強くなっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加をして人権に対して理解を深めようとしているが、個人の倫理観に任せていくことがあり人権のことについて考えていく必要があると考えている。	“人の痛みを感じられること、当事者意識を持つこと”を大切にされている。言葉遣いにも注意し、家族の前でも同じ態度ができるように伝えている。26年度は理念の振り返りも行われ、理念の中の「尊厳」と言う言葉を考える機会も作られた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が介護の経験がないため管理者に任せている現状である。研修の機会を与えてくれている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着部会に参加をしており、管理者レベルでは交流する機会ができてはいるが職員間の交流はできていないので今後の課題である。		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話をよく聞き、関係を作ることに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見も十分に聞き良い関係が作れるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何のサービスが適切なのか、グループホームのサービスが適切なのか検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にいる時間が長いので、家族のような気持ちを持っていると思うので介護される一方的な立場ではないと思う。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人との時間を持てるように、行事に誘ったり家族との外出など提案している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職場の同僚や入居前から行ってた美容院へ行くなど支援をしている。	家族などに年賀状や手紙を送っている。美容院や自宅、お墓参りに家族と出かけたり、兄弟会に参加された方もおられる。知人や家族がホームに來られ、居室でゆっくり過ごされる時もあり、これからも来て頂けるように職員が声かけしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性など考慮をして座る位置を決めたり、話の場ができるようにしたりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、入院先や入所先に面会に行くことはしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞くように努めている。	センター方式やケアチェック表等を使用し、生活歴や心身状況等を把握している。意思疎通が困難な方も表情などを観察し、意向の把握に努めている。「ぜんざいが食べたい」と言う要望も聞かれ、川端ぜんざいを食べに行く事もできた。今後もセンター方式の記入を増やしていく予定である。	職員は「ご利用者の方とゆっくりと話す時間が欲しい」と考えている。日勤や遅出のシフト変更が行われ、業務に追われる時間もあり、一番大切な“ご利用者の思い”に寄り添う時間作りの検討を続けていく予定である。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント、入居後の新しい情報などがあればフェイスシートに書き込むなどしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のペースに出来るだけ合わせて過ごしてもらうようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当が変わったので、今までは一人ですることが多かったが徐々に職員全体でプランを作れるようにしていきたい。	ご利用者、家族との担当者会議を行い、自立支援の視点で、できる事は自分でできるように努めている。植木の手入れや洗濯物たたみ等の役割と共に、リハビリも計画に盛り込まれ、計画別表には24時間全般のケア内容が記載されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で介護計画の理解に差があるためできていないところもあるが、情報共有はある程度できていると思う。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に実施していることはないが、実施できることは柔軟に対応していく。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物する際のお店や地域のボランティアの受け入れや中学校の職場体験の受け入れなどしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は協力医院を主治医としている。他科は主治医の信頼のおけるところを紹介してもらい受診につなげることが多い。	往診が可能であり、森本医院にかかりつけ医を変更される方もおられる。適宜、医療連携会議を開催し、26年9月からは協力医院の看護師（訪問看護）との協力体制もでき、26年12月に医師と看護師との話し合いが予定されている。受診結果は家族と共有できている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	8月までは看護師を雇い医療連携を図っていたが、9月より協力医院の看護師と医療連携を図りはじめたところである。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーあるいは病棟の婦長などの関係者と調整を図っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態にもよるが重度の方もみるようにはしている。将来の見通しなど家族と話すようにしている。	医療が常時必要な状況や、寝たきりの状況になった時などは、ホームでの対応が難しい事を説明し、必要に応じて特養などを紹介している。急変時に「延命処置はしない」などの意向確認も行われ、同意も頂いている。医師からのアドバイスも頂き、転院ぎりぎりまで誠心誠意のケアが行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、救命講習を受けている。緊急時の対応の演習を4回行った。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定で消防訓練を行なっている。そのうち、1回は消防署職員立会いの下で行なっている。	スプリンクラーを設置している。運営推進会議の時に参加者の方々と一緒に訓練を行い、家族の方の炊き出しも行われた。医院には救護活動などの連携を依頼し、災害に備えて水と非常食を3日分、オムツ類、簡易トイレ等を備えている。	運営推進委員会で地域の災害の可能性(川の増水等)や連携の必要性を話し合った。今後も引き続き、ハザードマップ等を基に防災マニュアルを作成し、地域との協力体制を整えていきたいと考えている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレなどのプライバシーの配慮をしている。家族の前でも利用者に対する接遇が変わらないように話している。	排泄や入浴の際は、耳元でお誘いしている。ご利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言動にも気を配り、馴れ合いになり過ぎないように職員同士で注意している。排泄時のトイレのカーテンの閉め方にも、更に注意していく予定である。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら判断できる利用者は訴え内容を聞くなどをして、自ら意見の表出の難しい方は選択肢を与えるなどして自己決定ができるようにすることがある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が優先されており、なかなか出来ない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは注意をしている。洋服が汚れることがあれば着替えるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	カロリーや栄養面の事を考え昼食を外注を取り入れた。バリエーションを保つため朝、夕食は手作りを続けていけるようにしていく。	朝食は、お味噌汁の他、副菜が3品は準備されている。26年9月から昼食の外注を導入し、ムース食等も宅配されているが、今後も、朝夕はホームで手作りをしていく予定である。ご利用者は、ごぼうそぎや野菜の下ごしらえ、おやつ作り等を手伝って下さっている。	以前は職員も一緒に食事をされていたが、現在は介助食の方もおられ、一緒に食べる事ができなくなった。介助をしながらも温かい雰囲気のある食事を心がけているが、今後も一緒に食事ができないかを検討予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を多く取り入れたり、水分摂取を促したりするようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。訪問歯科を受診している利用者もいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が少しでもできるように定時誘導を行っている。排泄の間隔を把握できるように努めている。	排泄表のチェックをしている。布パンツ(+パッド)を使用し、自立されている方もおられ、2人介助でトイレ誘導し、オムツからリハビリパンツに変更できた方や、布パンツに変更できた方もおられる。車いす利用の方も立位訓練を行い、転倒防止バーを設置し、安全に掴まれるようにしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	離床後に、冷たいものや牛乳を飲み排便につながるようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	柔軟に対応できていない。業務に合わせて入浴時間が決まっている。	湯船では歌が聞かれ、柚子湯や菖蒲湯も楽しまれている。湯温は季節で調整し、体調にも配慮し熱湯やぬる湯等の希望に添っている。拒否が見られる時は声かけを工夫し、入浴への恐怖心が強い方はシャワー浴と足浴で対応している。今後もゆっくりと入浴できるよう努めていく予定である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、休みたい時は昼夜逆転しないでいどに休んでいただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み間違えがないように注意をしている。薬の目的や用法などの理解は職員にばらつきがある。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを手伝っていただくなどしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出支援は対応できていないが、遠出のできる利用者で唐津や浜玉のしだれ桜や山笠飾りを見に行ったり、中洲川端まで出かけた。	職員の要望で敷地内の砂利道の舗装が行われた。車いす等を利用した外出がしやすくなり、ゴミ捨てに行かれたり、隣の薬局でおやつの買い物されている。木の葉モール等の屋内施設や糸島の海沿いのドライブを楽しまれ、みかん狩りや季節の花見にも出かけている。初めて開催された福岡マラソンの応援を、皆さんで行う事ができた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方が安心できるかたや高額で無い程度のお金は所持している方がいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を投函したい方がいれば、対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物をしている。あとは、温度や湿度を留意している。	リビングやペランダには、ご利用者が手入れする観葉植物が置かれている。リビングは広く、天窓から日差しが差し込み、除菌も可能な大型の空気清浄機が置かれ、冬は加湿器を使用している。1つのユニットにはピアノもあり、園児の来訪時に先生が弾かれている。季節の飾りや行事の写真、ご利用者の作品を掲示している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できていない。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや飾り物などを持ってきて頂いている。	居室には寝具や和傘、鏡台、仏壇等を持ち込まれている。家族が持って来られた植木鉢にお水をあげる方もおられ、趣味だった絵画や教え子から貰ったステンドグラスも飾られている。使い慣れた食器なども持参し、好みの色のカーテン(防災)を準備される方もおられる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を気にしたり、トイレに近い人は普段座る場所から近くにしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	○ 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	○ 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	○ 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	○ 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	○ 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	○ 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		